

ひょうごの遺跡

平成6年8月1日発行
兵庫県教育委員会
埋蔵文化財調査事務所
神戸市兵庫区荒田町2-1-5
☎652 TEL078-531-7011
FAX078-531-7014

特集：平成5年度の発掘調査

県教委では、平成5年度中に33件の発掘調査を行いました。調査を行った遺跡は、北は但馬から南は淡路島まで、全県下に及んでいます。前号で特集しました3つの遺跡に続いて、今号では17箇所の遺跡についてご紹介します。

弥生時代中期の円形周溝墓

なぬ か いち
七日市遺跡（氷上郡春日町七日市 他）

七日市遺跡は春日盆地のほぼ中央部、近畿自動車道敦賀線の春日インターチェンジ（I.C.）付近にあります。これまでの調査の結果、この遺跡は、旧石器時代、弥生～古墳時代、奈良～平安時代の各時代にわたる集落跡であることが判りました。その後、春日I.C.から分岐する北近畿豊岡自動車道の建設が計画され、平成5年度から兵庫県教育委員会が発掘調査を行っています。ここでは、弥生時代の調査成果を中心に報告します。

今回の調査の最も大きな発見は、3基の円形周溝墓（→シリーズ 遺跡を掘る参照）です。このうち最も大型のものは外径（溝の外肩までを含む長さ）が18.5mで、弥生時代中期の中では近畿地方最大級のものです。盛り土は後世の耕作で削られてしまい、埋葬施設など高まりの部分は完全に失われていました。ただ溝の中には地面を浅く削り残した陸橋部と呼ばれる部分が見つかりました。溝の中からは弥生時代中期後半（畿内第Ⅲ様式～第Ⅳ様式）の土器が出土していて、約2000年前に作られたものであることが分かります。

七日市遺跡の発掘調査は今年度も続けて行う予定です。今後の調査成果と合わせた時に、弥生時代の集落の姿はより明らかになると期待されます。



▶ 縄文時代の住居跡

ながさか
長坂遺跡 (神戸市西区伊川谷町長坂)

神戸西バイパス建設に先立って平成4年度から発掘調査を続けており、これまでに古墳時代から古代にかけての集落の跡や、水田跡が発見されています。

今回の調査では縄文時代後期初め(約4000年前)頃の暮らしぶりを伝える遺構が見つかりました。住居跡は径5mほどのいびつな円形で、浅く掘りくぼめてあり、中央の炉跡には炭がたくさん混じっていました。この他、ドングリを貯えていた穴や、それをすり潰すための石器なども見つかっています。



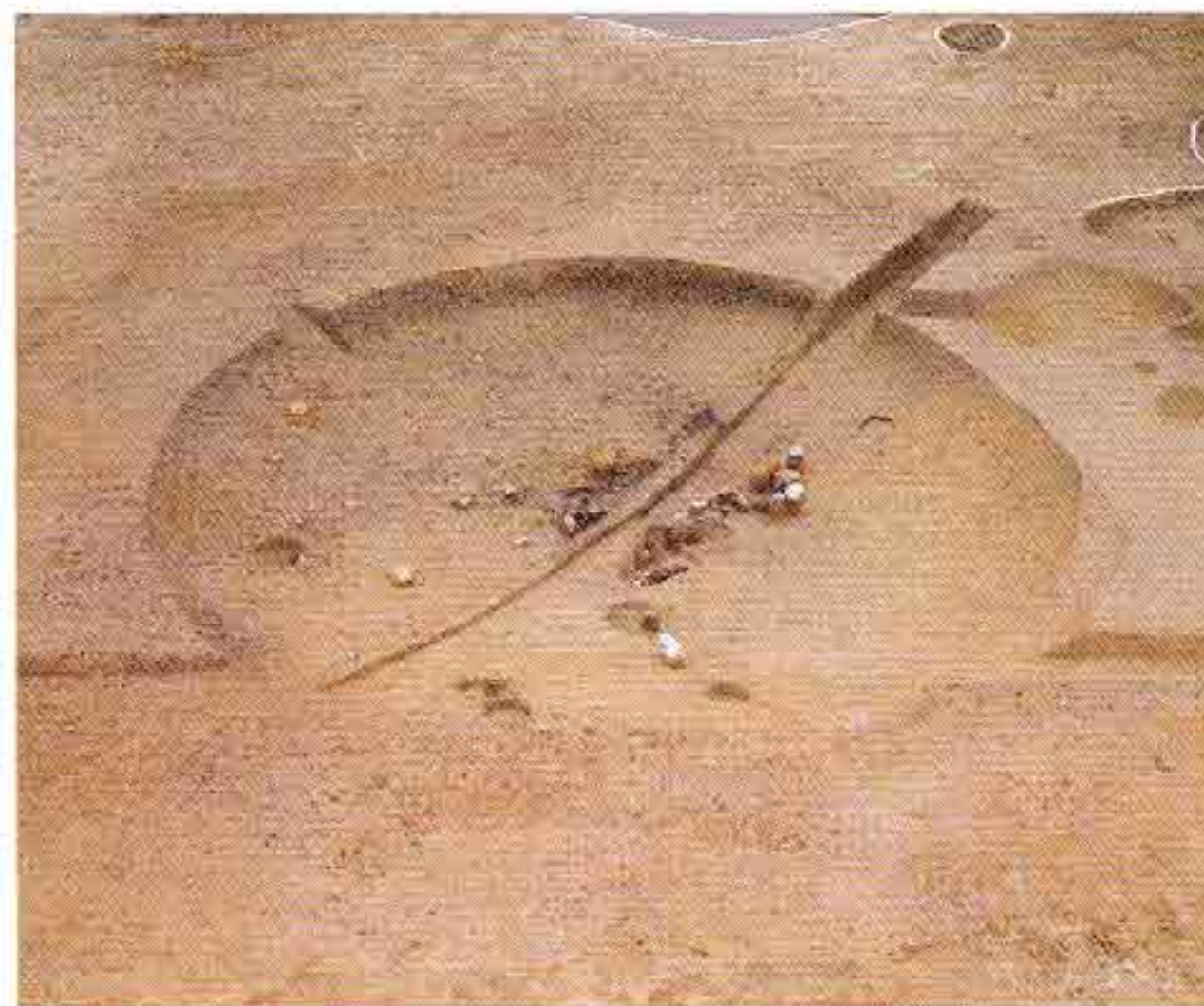
▶ 弥生時代のリハウス

としのかみ
年ノ神遺跡 (三木市鳥町年ノ神)

山陽自動車道建設事業に先立ち調査したところ、南向きのゆるやかな尾根の上に弥生時代中期後半～平安時代頃までの集落の跡を発見しました。

弥生時代の竪穴住居跡は、円形のもの(直径9m)と方形のもの(一辺6m)があり、同じ所で何度も建て替えられているのが分かりました。

この他、古墳時代や平安時代の遺構も見つかっていて、年ノ神古墳群との関わりが考えられます。



◀ 明石海峡の見張り場？

しおつばにし
塩壺西遺跡 (津名郡淡路町岩屋)

本州四国連絡道路建設に先立つ調査で、弥生時代後期(約1800年前)の集落跡が見つかりました。

調査した遺構には竪穴住居跡13棟、焼けた土坑、溝などがあります。また弥生時代のものとしては、日本最大級の鉄鍬(長さ14cm)が出土しています。一帯は明石海峡や神戸が一望できる丘陵上(標高40～70m)のため、見張り場やのろし台の性格をもった遺跡と考えられます。



◀ 弥生～古墳時代の周溝墓

ふくしまへいからやま
福島平唐山遺跡 (三田市福島平唐山)

県道有馬富士公園線の道路改良事業に伴うもので、周辺では平成4年度から発掘調査が続いています。

今回は丘陵の斜面に造られた弥生時代後期から古墳時代初め(1600～1700年前)の墓が見つかりました。ほとんどが溝で四角く区切っただけのものです。周囲からは、墓に供えられた土器も出土しました。この他、古墳時代後期の墓も見つかっており、この辺りは何世代にもわたる墓地だったようです。



▶ 横穴式石室の調査

おおいちなか
太市中古墳群（姫路市太市中）

姫路西バイパスの建設に伴い、6世紀後半を中心に造られた古墳6基を調査しました。これらは石を積み上げて築いた横穴式石室と呼ぶ部屋を持つ古墳です。石室の中には棺や死者に供える品々を納めますが、そのほとんどは後の時代に荒らされてしまっています。それでも石室内にたまった土を取り除くと、剣・鍔・轡といった鉄製の武器・馬具や、ガラス製勾玉・管玉、水晶製切子玉などの装飾品、須恵器や土師器といった土器などが出土しました。



▶ 装飾付須恵器が出土

ふくしま
福島古墳群（三田市福島）

県道有馬富士公園線の道路改良事業に伴い、2基の古墳を調査しました。

1号墳では木棺の跡が2つ見つかり、死者に供えた鉄の鍔や、馬や犬の装飾が付いた珍しい須恵器などが出土しました。2号墳では壊された横穴式石室の残骸がありましたが、遺物はほとんど出土しませんでした。古墳が造られた年代は、1号墳が6世紀後半、2号墳が7世紀前半頃と考えられます。

◀ 前期古墳の新資料

やまさきやま
山崎山古墳群（城崎郡竹野町羽入）

県道竹野・久美浜線道路改良工事に伴い、尾根上にある3基の古墳を調査しました。

墳丘上にはいくつかの木棺の痕跡が見つかりました。副葬品は少なく、5号墳から鉈やりがんなが出土したのですが、墓に供えられていた土器から、古墳時代前期のものであることがわかりました。竹野町ではこれまで古墳の調査例が少なかったため、今回の調査は今後の研究につながる貴重な資料となります。



◀ 朱塗りの横穴式石室

としのかみ
年ノ神古墳群（三木市鳥町年ノ神）

山陽自動車道建設に先立ち調査をしたところ、5基の古墳が見つかりました。

横穴式石室をもつ1・2号墳は、直径約15mの円墳で、いずれも朱が遺存し、耳環みみわや馬具が見つかりました。また、1・2号墳の南に位置する3～5号墳は、小石室をもった、古墳の最終段階のものです。

1・2号墳は7世紀前半、3～5号墳はそれに続く時期と考えられます。





◀ 1600年前の完全人骨

ほりやま
堀山古墳群 (加西市網引町堀山)

加古川支流の万願寺川を見下ろす丘陵上にあります。産業団地造成に伴い、古墳時代前期から後期にかけての方墳3基と横穴式石室1基を調査しました。

そのうち4世紀末頃(約1600年前)とみられる3号墳の石棺からは、ほぼ完全な人骨が見つかりました。また5世紀末頃(約1500年前)の6号墳からは、朝鮮半島で作られた土器(韓式土器)が出土しています。



▶ 古墳時代の祭祀跡

かみわき
上脇遺跡 (神戸市西区伊川谷町上脇)

神戸西バイパス建設に先立って調査しました。遺跡は明石川の支流である伊川右岸の自然堤防～段丘上の安定した場所に立地しており、古墳時代から中世にわたって集落が営まれました。

古墳時代(5～6世紀)の遺構には、竪穴住居跡・掘立柱建物跡・溝などがあります。溝からは祭祀の跡を示す完形の土器や滑石製小玉などが、まとまって出土しています。



◀ 飛鳥時代の工房跡

しもにしやま
下西山遺跡 (三田市けやき台3丁目)

北摂ニュータウン(ウッディタウン)建設に先立って発掘調査を行いました。遺跡は武庫川右岸の丘陵上にあり、弥生時代～飛鳥時代にかけての住居跡などが見つっています。

飛鳥時代(7世紀)の竪穴住居跡では鉄鍛冶を行っており、炉の跡や、刀子・鉄鏃・鉄釘などの製品が見つかりました。隣接する平方遺跡でも須恵器の生産を行っており、この付近一帯は当時の工業団地であったと言えます。



▶ 土師器を焼いた窯跡

ほうがん
法鑑遺跡 (三木市志染町御坂)

山陽自動車道建設に先立って調査しました。

ここでは奈良時代の土師器を焼いた窯跡が見つかりました。この窯跡は山の傾斜を利用したもので、高温のために真っ赤に焼けています。今まで見つっているものの中では最も規模が大きく(幅3.5m×長7.0m)、何回も補修しながら使っていたようです。ここで焼いた製品は、甕・甗・鉢などといった中・大型品だったようです。

▶ 奈良時代の須恵器窯跡群

しらさわはなれやま
白沢放山遺跡（加古川市上荘町白沢）

山陽自動車道建設に先立って調査を行い、奈良時代の須恵器の窯跡1基と、それに伴う炭穴が見つかりました。

この窯跡は土器を焼いている最中に天井部が落ちてしまったらしく、中に須恵器が窯詰めされたままの状況で残っていました。周辺には人形が出土した5号窯をはじめとする白沢窯跡群などがあり、この一帯は大規模な須恵器生産地とみられます。



▶ 荘園の中の屋敷跡

ほうりん じ きた
宝林寺北遺跡（龍野市揖保町中臣）

道路改良、揖保川流域下水道事業工事に先立って調査をしたところ、溝で囲まれた鎌倉時代初頭の屋敷跡が2箇所見つかりました。

屋敷跡の大きさは40～50m四方で、中には墓や掘立柱建物跡数棟などがあります。遺物には文字入りの硯や、石鍋の破片を利用した温石（カイロ）など、庶民が手にできなかったものがいくつもあるので、浦上荘の荘官クラスの館跡という見方もできます。



◀ 椀専用の須恵器窯跡

おなだ
小名田窯跡（神戸市北区八多町下小名田）

山陽自動車道建設に先立ち調査を行い、鎌倉時代前半の須恵器を焼いた窯跡2基が見つかりました。

窯自体はいずれも壊されていて残りは悪かったのですが、焼き損じを捨てた灰原から、整理用コンテナ600箱以上の土器片が出土しました。その大部分は椀で、それに少量の小皿と鉢・甕の破片が混じっていました。ほとんど椀専用の窯だったと言えるでしょう。



◀ 大型窯跡の調査

かわらけ山窯跡（三原郡三原町八木天野馬廻）

ダム建設に先立ち調査した登り窯です。

薪を焚きつける部分と、焼き損じたものを捨てる灰原はすでになくなっていて、辛うじて窯本体の焼く物を置く部分だけが残っていました。

窯の幅は2mもあり、この種の窯の中では大型の部類に入ります。残念ながらここで焼かれた製品は出土しなかったため、詳しい年代は分かりませんが、窯の形からみて江戸時代よりは古いものでしょう。

シリーズ 遺跡を掘る

えんけいしゅうこう ぼ
円形周溝墓

弥生時代の墓の一種で、墓の周りを溝で丸く囲んだものをこう呼びます。溝の内側は土を盛り上げ、そこに死者を葬りました。ちなみに、似たような墓で、周りを四角く囲んだものは方形周溝墓と呼ばれます。

この種の墓は、弥生時代の前期から大阪湾沿岸～瀬戸内地域に始まり、やがて西日本一円に広まりました。兵庫県内でこれまでに見つかった円形周溝墓は、14遺跡33基あります。七日市遺跡のものは弥生時代中期としては最大級ですが、後期になると20mを超えるものが現れます。

右上の写真は、神戸市東灘区深江北町遺跡の円形周溝墓群です。ここでは直径10m前後の周溝墓が11基以上まとまって見つかりました。集団墓地でしょうか。

右下の写真は、三田市川除・藤ノ木遺跡の円形周溝墓です。こちらは大型で、貼り石をもった、うりふたつの周溝墓が2基、並んで見つかりました。特定の家族の墓かもしれません。



神戸市東灘区 深江北町遺跡



三田市 川除・藤ノ木遺跡

企画展のご案内

『平成5年度の出土品整理と発掘調査速報展』

当事務所では、発掘調査の成果を広く紹介するため、随時『企画展』を行っています。現在は、昨年度に出土品の整理を行った遺跡と、新たに発掘調査を行った遺跡の遺物や写真パネルなどを展示しております。最新の資料も含まれていますので、ぜひ見学においで下さい。



展示内容	<ul style="list-style-type: none"> ・姫路市六角遺跡 分銅形土製品 ・神戸市玉津田中遺跡 方形周溝墓供献土器 焼失住居跡出土土器一括 ・加古川市白沢窯跡群 陶製人形 ・出石町袴狭遺跡 動物絵画木製品 など
場 所	当事務所2階展示室
期 間	平成6年4月1日～9月30日 (土・日曜日、祝日は除く)
開館時間	午前10時～午後4時

ここだけの遺物のお話

ガラス玉

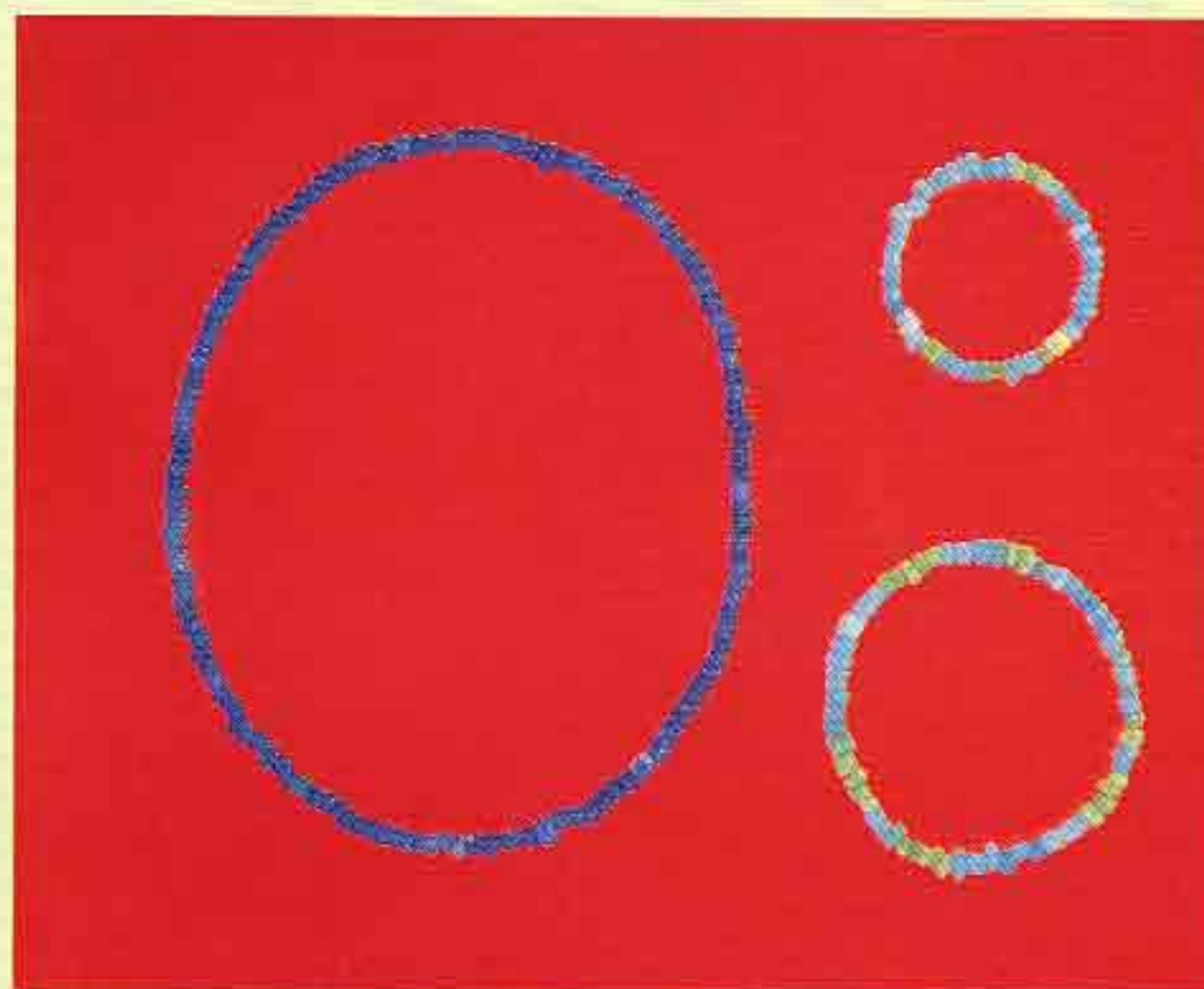
はるかシルクロードのかなたで発明され、中国・朝鮮半島を経て伝えられたガラスは、古代以前には、現代とは比べものにならないほど貴重な宝物として、首飾りや腕輪などに用いられました。

ガラスはかなり風化しやすいものですが、発掘されたガラス玉は今でも当時の透き通る色合いをとどめています。さまざまな色や形をしたこれらの玉がどのようにして作られたのか、現代のガラス作りの技術からあれこれ想像して復元していますが、よく分からない点も多く残っています。

こうした中で、個々のガラス玉を実体顕微鏡で拡大して細かく観察したり、不透明なものはX線透視で孔の内部の様子を探ったりすることで、玉の作り方の手がかりが得られることがあります。

写真右下は多紀郡西紀町内場山遺跡の弥生時代後期の木棺墓から出土したガラス管玉の表面を拡大したものです。少し空色の混ざった美しいエメラルドグリーンに白く渦巻くような縞模様がみえます。これは金属線の芯にガラスを巻き付けて長い玉を作る「巻き玉」と言う方法を用いたことを示しています。

他に、タコ焼きを作るように鑄型を用いる方法や、長いガラス玉を切断して小さな玉をたくさん作る方法などがあったと考えられていますが、詳しくは別の機会に。



神戸市西区 下大谷第1号墳出土ガラス小玉



多紀郡西紀町 内場山遺跡出土ガラス管玉

特別展のお知らせ —発掘が語る兵庫の歴史—

恒例となりました秋の埋蔵文化財の特別展示を、今年も計画しております。ご期待下さい。

テーマ 平成6年度特別展

『米づくりの道具展』

内容

最近、「米」にまつわる話題が注目されています。そこで、弥生時代に始まる米づくりにかかわる遺跡・遺物の展示を行い、「米」について考え、そして触れる機会にしたいと思います。

日時

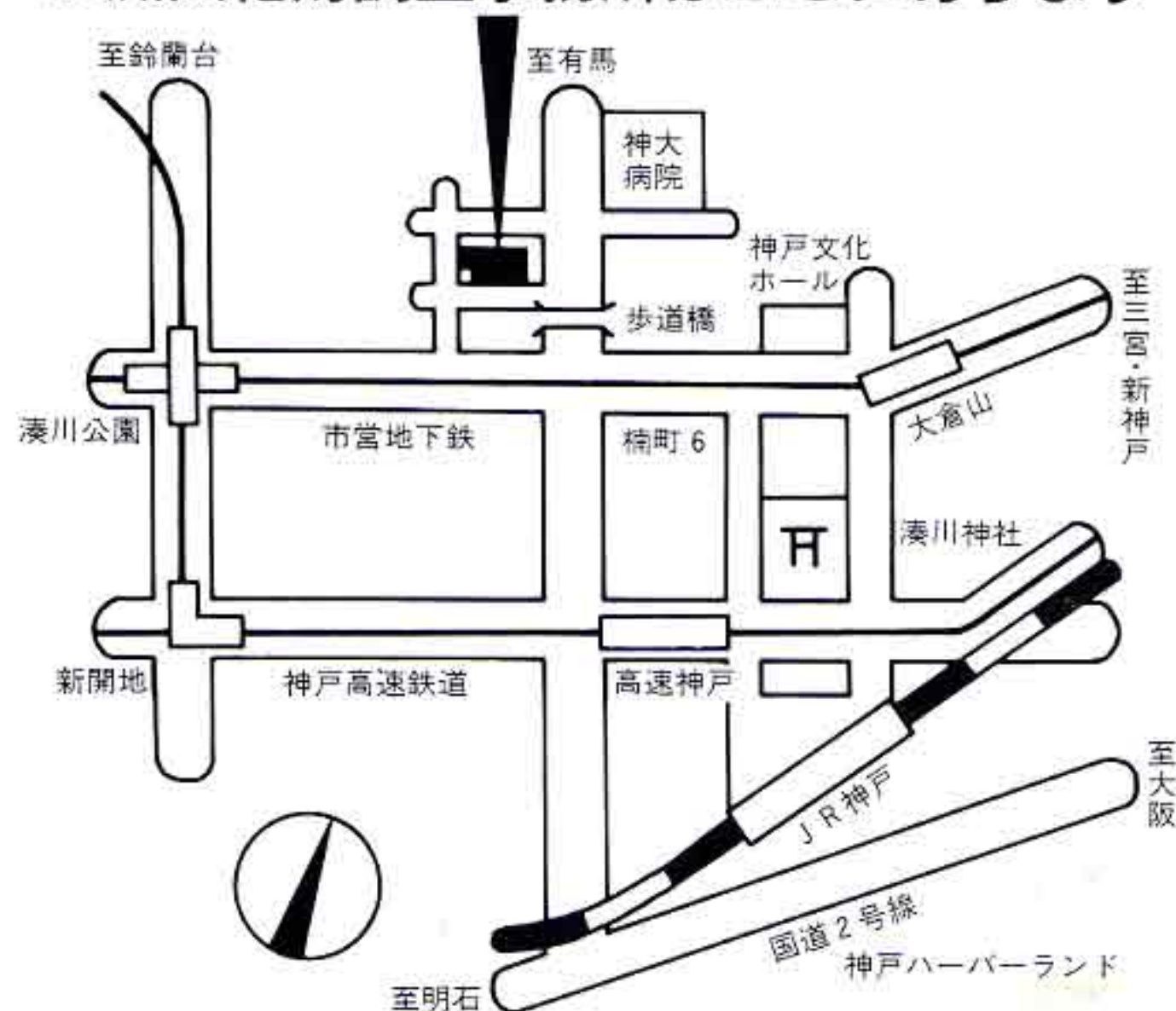
平成6年10月30日～11月13日（15日間）

10:00～16:30

場所

当事務所2階展示室

埋蔵文化財調査事務所はここにあります



平成6年度上半期のおもな発掘調査一覧

No.	遺 跡 名	所 在 地	遺 跡 の 種 類	開 発 事 業
①	袴 狭 遺 跡 他	出石郡出石町袴狭 他	古墳時代～平安時代集落跡	小野川放水路事業
②	七 日 市 遺 跡	氷上郡春日町七日市	旧石器時代、弥生時代集落跡	北近畿豊岡自動車道建設
③	堀 山 遺 跡	加西市網引町堀山	縄文時代～古墳時代	加西網引工業団地造成
④	二郎宮ノ前遺跡	神戸市北区有野町	古墳時代～中世集落跡	神戸電鉄公園都市線留置施設
⑤	八 多 中 遺 跡	神戸市北区八多町	中世集落跡	山陽自動車道建設
⑥	北山古墳群 他	三木市鳥町 他	弥生時代集落跡、古墳群	
⑦	中谷1号窯跡 他	加古川市志方町 他	奈良時代～平安時代窯跡	
⑧	長 坂 遺 跡	神戸市西区伊川谷町	古墳時代・中世集落跡	一般国道2号(神戸西バイパス)建設
⑨	丸 山 遺 跡	津名郡淡路町岩屋	縄文時代集落跡	一般国道28号改良工事(岩屋改良)
⑩	太 市 中 古 墳 群	姫路市太市中	古墳群	一般国道29号(姫路西バイパス)建設
⑪	亀 田 遺 跡	揖保郡太子町上太田	弥生時代～中世集落跡	
⑫	清 水 遺 跡	龍野市揖西町清水新	弥生時代～中世集落跡	県道桑原北山揖保川線緊急道路整備

発掘調査をする遺跡の位置



※番号は表に対応しています

現地説明会の様子



加西市堀山遺跡

編集後記

今号では、昨年度の発掘調査を総まくり的に紹介しました。紙面の都合で、あまり詳しい内容までは盛り込めませんでした。また、ここに載せきれなかった遺跡もあります。限られたスペースに十分な情報を詰め込む難しさを感じました。▷上の図で見られるように、今年度も県内各地で発掘調査が始まりました。7月23日の加西市堀山遺跡を皮切りに、現地説明会が随時行われます。現地説明会の案内は、新聞紙上などをお気をつけ下さい。▷今年は例年になく猛暑で、発掘現場で仕事をする者にとっては厳しい夏です。しかし、そう言ってる間に秋が来て、特別展の準備などに追われるのが目に見えるようです。

